

# 「今日の国際情勢と これからのユネスコ活動」

- ・ 私たちはどのような世界を見ているのか  
注目されるグローバル・サウスの台頭
- ・ 日本のユネスコ活動へのimplication  
求められる日本ならではの役割とは

2023年7月14日

道傳 愛子

私たちは、  
どのような世界を  
見ているのか

- ポストコロナ、ウクライナ侵攻、気候変動など複雑に絡み合うグローバルな課題山積
  - ‘20年には1日1.9ドル未満で生活する  
極度の貧困層はこの数十年で初めて増加、  
新たに1億2000万人が極度の貧困に。
  - 世界で1億人以上の子どもが  
読解力の最低基準を下回る
- 複合的な課題の解決に協調できない国際社会  
深まる米中の対立
- 存在感を増す「グローバル・サウス」  
インド、インドネシア、ベトナムなど  
世界の成長エンジンとしての期待

私たちは、どのような世界を見ているのか



- **The Nonaligned World**  
The West, the Rest, and the New Global Disorder  
May/June 2023, Foreign Affairs
- **America's New Best Friend**  
:Why India is Indispensable  
June 17th 2023, The Economist

私たちは、  
どのような世界を  
見ているのか

- 変容する国際社会の秩序と「グローバル・サウス」

→新たな国際秩序の構築を標ぼうする中国

それを「最大の挑戦」と位置付けるアメリカ

反米を基調に中国との新たな結束を打ち出すロシア

→「グローバル・サウス」の地政学的な位置づけとその主張

6月のシャングリラ安全保障会議の取材を通して

→「グローバル・サウス」の国々が語る冷戦時の非同盟(NAM)との差異

× “Non-Alignment                      ○Multi Alignment “

『選択するのは我々（グローバルサウス）である』

→アップデートが求められる “世界観”

存在感を増す「グローバル・サウス」

世界の成長エンジンとしての期待

かつてないほど広がる域内・国内格差



日本のユネスコ  
活動への  
implication

- ・ 求められるユネスコ活動とは  
日本ならではの役割とは

<開発協力の柱としての「人間の安全保障」>

→一人ひとりが恐怖と欠乏から逃れ、尊厳を持って幸福に  
生きることができるよう、国・社会づくりを進める

→複合的危機の時代において、課題が複雑に絡み合う中で、  
保健・栄養・教育を含む分野における「人への投資」  
(令和5年6月9日 開発協力大綱より)

# 日本のユネスコ 活動への implication

- ・求められるユネスコ活動とは  
日本ならではの役割とは

## < 『ウェルビーイング Well-being』 の 内外での共有・発信と協調 >

→G7教育相会合での日本からの「ウェルビーイング」の発信を踏まえて  
→経済成長中心から価値観の多様化、問い直しが進む中で、  
身体や精神社会的に満ち足りた状態に注目する考え方としての  
ウェルビーイングについての議論の深化

→日本では”Happier Classrooms”は実現しているのか  
”Happier Classrooms”（生徒も教師も「幸せ度」が高い教室）に向けた  
取り組みに見るヒント  
(UNESCO MGIEPマハトマ・ガンジー平和と教育のための研究所 事例)

→途上国、先進国がそれぞれに抱える課題への共感と  
課題解決に向けた協調の説得力のある呼びかけ